

春光天地に満ち、校庭の木々の梢を揺らす風にも春が感じられる季節となりました。今日のこの佳き日に、同窓会会長〇〇様、PTA会長〇〇様ほか、多数のご来賓並びに保護者の皆様のご臨席を賜り、愛知県立千種高等学校 令和六年度卒業証書授与式を挙行できますことは、本校にとって誠に喜ばしいことでもあります。ご臨席賜りました皆様、ありがとうございました。

ただ今、卒業証書を授与しました三百四十八名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。

この三年間、皆さんは本当によく頑張ってきました。学習、部活動、学校行事をはじめとする学校生活の中で、人としての優しさ、たくましさも身に付けてきました。これまでの努力が今日ここに実り、卒業の日を迎えたことに心から祝福し、前途に幸多からんことを祈ります。

保護者の皆様方におかれましては、お子様の入学以来、その成長を見守り続け、今日のよき日を迎えられたお慶びはひとしおのこととご拝察し、教職員一同、心からお祝いを申し上げます。

現在わが国は、気候変動や生態系の崩壊、頻発化・激甚化する自然災害、格差の拡大・固定化・再生産といった、相互に関連する複雑な社会課題に直面しております。一方、世界に目を転じますと、ロシアによるウクライナ侵略、中東情勢など、先を見通すことが一層困難になっております。

人類が20世紀から21世紀にかけて掲げてきた自由や多様性という価値が問われている時代、「先の見えない社会」だからこそ、皆さんには将来自分なりの独創性と柔軟性を発揮し、世界のどこかで、または地域に根付き、世の中を支える人になってほしいと願っていますし、そうなってくれると信じています。

さて、この晴れの日にあたり、私から二つの言葉を卒業生の皆さんに送りたいと思います。

一つ目は「感謝」です。

高校生である十代後半は、自分の人生をどう生きればよいか、生きることの意味は何かということについて思い悩む時期です。また、自分自身や自己と他者との関係、さらには、社会について関心を持ち、在るべき姿について考えを深める時期でもあります。それらを模索する中で、自己を確立し、人生観や価値観を形成し、主体性をもって生きたいという意欲を高めていくのです。しかし、その道のりは平坦なものではなかったはずで、理想と現実の

キャップに苦しんだり、挫折感や無力感を味わったりすることが多々あったと思います。そんな時、家族の方に思いをぶつけ衝突してしまったこともあったと思います。あるいは、気づいていないかもしれませんが、家族の方は君たちの成長の過程を心配しつつ蔭ながら支えていてくれたはずですよ。自分一人で高校生活を送ったわけではありません。今日の日を迎えた家族の思いは、言葉には尽くせぬほどのものがあります。今日まで暖かく見守ってくださった家族に「感謝」し、一言「ありがとう」と言葉に出してお礼を言ってください。言葉に出して「感謝」の気持ちを表現すること、それが、これまで育て、支えてくれた方へのけじめだと思います。

二つ目は「変化を作り出す力」です。

私は、以前の職場で大きなプロジェクトを任せられたことがありました。今までに全くやったことのない内容のもので、何をやったらよいかよく分からず、とにかく手探りで仕事を進めていきました。しばらくすると、このプロジェクトを成し遂げるためには、予算は全く足りないし、今ある条例や規則の中ではできないことが分かってきました。そこで、資料をそろえて、根拠を示し、このプロジェクトは「できない」ことを上司に報告しました。そのとき、上司は『『できること』をただやっているのは仕事とは言わないんだよ。『できないこと』をなんとか『できるようにする』のが仕事なんだよ』とにこにこ笑いながら私に言いました。私は、その言葉に、ハンマーで思い切り後頭部を叩かれたような衝撃を受けました。自分の仕事に向き合う気持ちは甘かったのです。それからは、考え方を百八十度変換し、とても難しい仕事でしたが、なんとか成し遂げることができました。変化に主体的に向き合っていくだけでなく、変化を作り出す力が必要であることを言葉だけではなく、身をもって体験することができ、素晴らしい機会を与えてもらったと今では感謝しています。

1冊の本を紹介します。「チーズはどこへ消えた？」1988年、スペンサー・ジョンソンが作者の非常に有名な「ビジネス絵本」です。全世界で3000万部近くが売れ、最近では大谷翔平選手が愛読していることでも改めて知られています。

チーズが隠された迷路で、2匹のネズミと2人の小人が大量のチーズを見つけます。ネズミたちは毎朝、家から走ってチーズを食べに行きますが、小人2人はチーズの近くに引っ越し、お昼に起きてゆっくりとチーズを食べに行きます。毎日食べ続けていたので当然のことですが、ある日チーズはなくなってしまいます。そこでネズミたちは新たなチーズを探しに行きますが、小人たちはチーズがなくなったことを認められず、現状に固執して、チーズが戻ってくるのを待つ……というお話です。

ここにおいてチーズは、「私たちが人生で求めているもの」の象徴であり、生きていくための糧です。それを一度は発見したものの、そのままではただ減っていくだけだと理解したとき、ある人は「まだいいだろう」と現状維持を優先し、変化を嫌うのに対して、別の人は「このままではまずい」と考え、現状を放棄して新しい道を探しに出でいくわけです。A I

時代の到来と社会の大変化を前にした私たちも、まさにこの状況に置かれているのではないかと……というのが、私のシンプルな感覚です。

アメリカ合衆国の公民権運動活動家で米国連邦議会から「公民権運動の母」と呼ばれたローザ・パークス氏は「変化を起こすには、恐れずに最初の一步を踏み出すということです。そうでなければ、変化を起こすことはできません」と言っています。世界が猛烈なスピードで変化していく中、その変化に主体的に向き合い、しっかりと今を捉え、未来を見つめ、まずは、自分が変えられる範囲の社会で変化を作り出す、すなわち、変化を起こせる力が求められる時代です。今日、卒業生の皆さんは、ここ千種高校を旅立つこととなります。上級学校への進学を志す皆さんがほとんどであると思いますが、数年後には社会人となることでしょう。ぜひ、変化に対応するだけにとどまらず、変化を作り出すことのできる社会人になってほしいと思いますし、千種高校で学んだ皆さんなら必ずできると確信しています。

保護者の皆様には、お子様の新たな旅立ちに改めてお慶び申し上げますとともに、これまでの本校へのご支援、ご協力に深く感謝いたします。

最後になりましたが、ここに残る者はいつまでも皆さんのことを忘れず、皆さんがいつまでも母校愛、千種愛を持ち続けてくれることを願っています。

皆さんにとって、母校千種高校が、やがてころのふるさととなり、過ごした日々が青春の輝かしい光となることを祈っています。

令和七年三月一日

愛知県立千種高等学校長 加藤 文彦

※本文中の個人名は削除しました。